



令和元年度

山形市

**地域包括支援センター
の概要**

山形市 長寿支援課

I 山形市地域包括支援センターの活動

1 山形市地域包括支援センターの概要

高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるように、包括的及び継続的な支援を行う地域包括ケアを実現するための中心的役割を担う機関として、山形市では、高齢者人口や地域特性等を考慮し、市内を14の圏域に分け、各圏域に「地域包括支援センター」を設置している。(平成31年4月より第七・金井地区の圏域を分割し、新たに金井地域包括支援センターを設置。)

山形市では、包括的支援事業業務委託により実施しており、地域包括支援センターは山形市からの委託を受けた社会福祉法人や医療法人が設置運営している。



センター配置場所
及び圏域内高齢者数

済生会なでしこ地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市沖町79-1		
担当地区	出羽、大郷、明治、千歳		
圏域人口	20,917	高齢化率	34.1
高齢者人口	7,128		

地域包括支援センター大森			
社会福祉法人山形			
所在地	山形市大字大森2139-1		
担当地区	楯山、高瀬、山寺		
圏域人口	9,299	高齢化率	39.3
高齢者人口	3,650		

地域包括支援センター敬寿会			
社会福祉法人敬寿会			
所在地	山形市五十鈴3-6-17		
担当地区	東沢、鈴川		
圏域人口	23,433	高齢化率	30.4
高齢者人口	7,132		

たきやま地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市大字岩波5		
担当地区	滝山		
圏域人口	23,502	高齢化率	26.1
高齢者人口	6,132		

地域包括支援センターふれあい			
医療法人社団悠愛会			
所在地	山形市桜田西4-1-14		
担当地区	第六		
圏域人口	13,510	高齢化率	29.3
高齢者人口	3,953		

山形西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市すぎさわの丘46		
担当地区	南山形、本沢、大曽根、西山形、村木沢		
圏域人口	17,820	高齢化率	31.6
高齢者人口	5,640		

篠田好生会さくら地域包括支援センター			
医療法人篠田好生会			
所在地	山形市桜町2-68		
担当地区	第一、第二		
圏域人口	14,349	高齢化率	29.3
高齢者人口	4,210		

地域包括支援センターかがやき			
医療法人社団松柏会			
所在地	山形市旅籠町1-7-23		
担当地区	第三、第四、第九		
圏域人口	21,273	高齢化率	28.0
高齢者人口	5,956		

山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区	第七		
圏域人口	15,592	高齢化率	28.6
高齢者人口	4,459		

山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区	第十、飯塚、榎沢		
圏域人口	15,617	高齢化率	30.9
高齢者人口	4,820		

蔵王地域包括支援センター			
社会福祉法人妙光福祉会			
所在地	山形市蔵王半郷石高79-7		
担当地区	蔵王		
圏域人口	16,629	高齢化率	30.1
高齢者人口	5,004		

済生会愛らんど地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市小白川町2-3-1		
担当地区	第五、第八		
圏域人口	17,865	高齢化率	26.3
高齢者人口	4,693		

南沼原地域包括支援センター			
社会福祉法人山形公和会			
所在地	山形市沼木1129-1		
担当地区	南沼原		
圏域人口	17,813	高齢化率	27.1
高齢者人口	4,822		

金井地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市陣場903番地		
担当地区	金井		
圏域人口	15,596	高齢化率	28.6
高齢者人口	4,463		

山形市基幹型地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町2-2-22		
担当地区			
圏域人口		高齢化率	
高齢者人口			

山形市			
人口	243,215	高齢化率	29.6
高齢化人口	72,062		

※担当地区を持たない

R2.4.1現在

② 地域包括支援センター 経営者会議

【開催目的】

地域包括支援センターの運営方針や予算・人員体制に関わる事項、制度改正に伴う説明、高齢者保健福祉計画の共有などについて協議する。

【参加者】

各地域包括支援センター受託法人代表者、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課

【令和元年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 10月16日	<ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センター相談実績等について・各センターの職員配置及び業務体制等について・指定介護予防支援事業の状況について・地域包括支援センター評価事業について・在宅医療・介護連携推進事業の実施状況について・介護予防・日常生活支援総合事業及び介護保険事業の実施状況について・健康ポイント対象事業について
第2回 1月16日	<ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センターの評価事業の結果について・地域包括支援センター運営方針について・令和2年度地域包括支援センター運営に向けて・令和2年度自立支援型地域ケア会議について・次期計画に向けたニーズ調査及び策定スケジュール案について・総合事業、一般介護予防事業について・各包括的支援事業（在宅医療・医療介護連携、生活支援体制整備、認知症施策）の実施状況・総合事業及び介護保険事業実施状況について

③ 地域包括支援センター センター長会議

【開催目的】

制度の周知と方針の共有、地域包括支援センターの共通課題についての検討、山形市からの情報共有などを行う。

【参加者】

各地域包括支援センター長、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課

【令和元年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 4月11日	<ul style="list-style-type: none">・長寿支援課・介護保険課各係の業務分担等について・長寿支援課等の地区担当及び地域包括支援センター等の職員について・平成31年度一般介護予防事業について・元気あっぷ教室の空き状況について・居宅介護支援事業所等研修会の開催について・地域包括支援センター評価事業のスケジュールについて

<p>第2回 7月24日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度第1回山形市地域包括ケア推進協議会の開催結果について ・平成30年度地域包括支援センター相談実績等について ・健康ポイント事業について ・外部会議への委員選出について ・山形市「我が事・丸ごと」の地域づくり推進モデル事業の実施状況について ・通所型サービスC（元気あっぷ教室）の実施状況について ・令和2年度の自立支援型地域ケア会議について
<p>第3回 3月23日 (書面協議)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度第3回地域包括ケア推進協議会について ・地域包括支援センター相談実績等について ・令和2年度地域包括支援センター運営方針について ・山形市ケアマネジメントに関する基本方針について ・令和2年度地域包括支援センターに関する業務委託契約事務等について ・包括的支援事業業務仕様書における追加記載・変更事項（予定）について ・令和2年度介護予防・日常生活支援総合事業について ・新型コロナウイルス感染症の対応について <p style="text-align: right;">※新型コロナウイルス感染防止対策のため書面協議とした</p>

4 地域包括支援センター ブロック情報交換会

【開催目的】

地域包括支援センター業務の円滑な遂行のために、3ブロック(北東、中央、南西)に分け、日常的な情報共有、業務上の課題の共有などを行った。地域包括支援センターが主体となり、各ブロック年6回程度開催した。

5 機能別部会活動

【開催目的】

地域包括支援センターの4つの機能(総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメント業務)を向上・推進するために開催した。地域包括支援センターの業務上の課題について、専門性に基つき分析し、解決に向けた取組み等を行った。

【令和元年度の開催】

名称	主な取り組み
総合相談部会	地域包括支援センター初任職員向けの研修、障害者相談支援事業所との合同研修の企画・運営など、地域包括支援センター職員のスキルアップや他機関との連携に向けた取組みを行った。
権利擁護部会	支援者不在（身寄りのない方）への支援に関する課題について、各地域包括支援センターの現状把握のため、アンケート調査の実施・分析を行った。また、予防策の一つとして作成したチェックシートの活用などについて取り組んだ。
包括的・継続的ケアマネジメント部会	地域包括支援センター初任職員向けの研修実施や事例検討のスタンダード化と自立支援型地域ケア会議フォローのための作業班に分かれ、地域包括支援センター職員のスキルアップや居宅介護支援専門員の支援指導に活用するための手引きを作成した。
介護予防ケアマネジメント部会	地域包括支援センター初任職員向けの研修や在宅生活を支援する知識を得るため「最新のがん患者の治療と支援の実際」についての研修を行うなど、介護予防事業の取組み状況の意見交換やケアマネジメントのスキルアップを図る取組みを行った。

6 自立支援型地域ケア会議

【開催目的】

高齢者の自立支援に資するケアマネジメントの支援や高齢者のQOLの向上、介護給付の適正化の取り組みに資することにより、医療・介護・住まい・生活支援等が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築の実現を目指すために開催した。

また、会議を通して、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員のスキルアップを図るとともに、検討事例を積み重ねることにより地域課題の把握につながった。

令和元年度は1回の開催につき3事例検討し、合計14回42事例の検討を行った。

【参加者】

- ・コーディネーター：長寿支援課・介護保険課職員、基幹型地域包括支援センター職員
- ・事例提供者：地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所職員、小規模多機能型居宅介護事業所職員
- ・助言者(薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士)

【令和元年度の開催】

4/24 5/22 6/11 7/3 7/24 8/7 8/30 9/20 10/18 11/13 12/4 12/18 1/21 2/19

7 地域ケア調整会議

【開催目的】

包括的支援事業を担う多機関が把握・整理した地域課題のうち、多機関で共有して協議・対応すべき課題について、解決に向けた方向性と役割分担等を協議し、一定の方向付けを行った。

【参加者】

各機能別部会代表者、おれんじサポートチーム、在宅医療・介護連携室ポピー、生活支援コーディネーター、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課

【令和元年度の開催】

10/3・2/26

Ⅱ 各地域包括支援センターの活動

1 済生会なでしこ地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月20日	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度 事業報告 平成31年度 事業計画 情報交換「高齢者を支える地域の取り組みについて」

◇ 地区別ネットワーク会議（民生委員懇談会） 4回

◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 5回

◇ 地区役員定例会への参加

	千歳地区	出羽地区	明治地区	大郷地区
民生委員児童委員定例会	3回	3回	3回	2回
福祉推進会議(地区社協總會を含む)	1回	1回	1回	2回

◇ 地区行事への参加

千歳地区：文化祭、福祉協力員研修会、福祉協力員活動情報交換会、老人クラブ輪投げ大会・冬季スポーツフェスタ・スポーツ輪投げ大会、民生委員定例会

出羽地区：文化祭、新春交歓会、福祉協力員研修会、福祉事業所連絡会、地区總會、民生委員定例会

明治地区：文化祭、支え合い研修、福祉マップ作成研修会、地区總會、民生委員定例会

大郷地区：文化祭、事務局会議、地区總會、地区社協福祉協力員研修会、福祉マップ更新研修会、民生委員定例会

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポータースキルアップ研修会(サポーター養成講座・徘徊模擬訓練) 3回

◇ 圏域内居宅事業所研修会（金融犯罪防止のための研修会） 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催(ケアマネジャー支援に関するもの) 5回
- ◇ 圏域内事業所研修会
(介護支援専門員・サービス事業所合同会議、居宅介護支援事業所管理者交流会等) 3回
- ◇ 地域密着型サービス事業所運営推進会議 11回

4 介護予防の取り組み

- ◇ 住民主体の通いの場立ち上げ及び継続支援活動 34回
- ◇ 介護予防教室(ながいき元気くらぶ) 4回

紹介したい取り組み

事業名	①認知症サポーター養成講座・徘徊模擬訓練 ②金融犯罪防止のための研修会
事業の目的	① 認知症の知識の普及と、安心して暮らせるまちづくりに繋げる。 ② 金融犯罪被害とその対策について見識を広げケアマネジメントに生かす。
事業概要	<p>① 認知症サポーター養成講座 徘徊模擬訓練 会場：大郷地区 天神町集会所 近隣住民（18名）、いきいきの郷・グループホームおおさと・あかしゃ共生苑の施設職員やおれんじサポートチームえがお、社会福祉協議会から協力を得て実施。 職員が認知症高齢者役を担い、屋内外で声掛け練習を実施。</p> <p>②東北財務局山形財務事務所理財課 専門調査員による 金融犯罪防止のための研修会 会場：山形済生病院南館 介護支援専門員（24名）の参加あり。</p>  
成果または感想	<p>H30年度に認サポ、徘徊模擬訓練に参加した民生委員より、自分の地区でも実施したいとの声が上がリ開催に至る。発起人の民生委員から地区の役員、サロン参加者に声をかけていただき、地域住民、地域施設、社協、生活支援コーディネーター、認知症初期集中支援チームと協同して企画・実施。</p> <p>高齢者を狙った金融犯罪増加に伴い、H31年度初めて東北財務局財務事務所理財課による研修会を開催した。具体的な事例や対処法など、初めて聴く内容で大変ためになったとの感想が多数寄せられた。</p>

2 地域包括支援センター大森

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会



開催日	主な議題
2月27日 (書面協議)	3地区合同・平成31年度 地域包括支援センター大森活動報告について ・令和2年度 地域包括支援センター大森活動計画案について ※新型コロナウイルス感染防止対策のため書面協議とした。 (会議資料を出席者へ郵送)

◇ いきいきサロンへの参加 11回

◇ 地区役員定例会への参加 31回 (地区民生委員協議会)

◇ 地区行事への参加

高瀬地区：高齢者支援連絡会、地域福祉推進会議、福祉協力員研修会

橋山地区：地域福祉推進会議、福祉協力員研修会

山寺地区：社会福祉協議会福祉協力員研修会、振興会総会、老人クラブ総会、
地区社会福祉協議会全体会議

その他：各地区三者懇談会参加 14回

◇ センターだよりの発行 6回

◇ ホームページの掲載、更新 随時
<http://www.sunshineoomori.jp/houkatsu/>



2 権利擁護業務

◇ 成年後見制度申立支援 0回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 圏域内介護支援専門員連絡会 (事例検討会、情報交換等) 1回

◇ 圏域内医療職連携会議 (フットケアに関する講話、情報交換会等) 1回

◇ 圏域内介護職情報交換会 (情報交換等) 1回

◇ 個別地域ケア会議 3回

4 介護予防ケアマネジメント業務

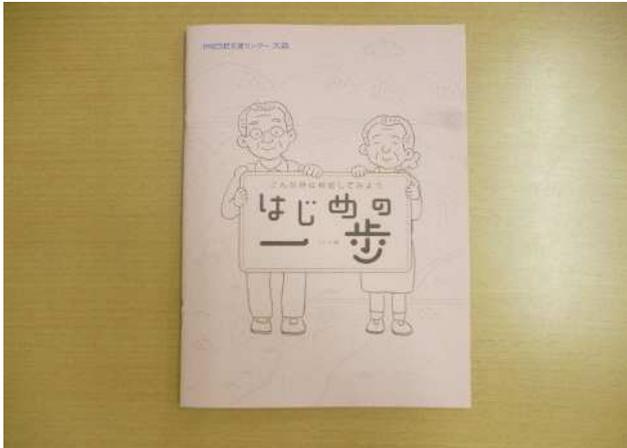
◇ 介護予防教室（まるっと☆おおもり） 2回

（消費生活出前講座 おとめ座による寸劇）

◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 13回

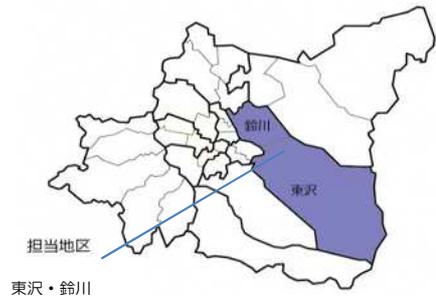
（いきいき百歳体操・認知症についての講話）

紹介したい取り組み

事業名	相談のしおり圏域版「はじめの一步」の作成・配布
事業の目的	「相談場所が分からない」等の地域住民の方の声を受け、圏域内の情報をまとめた冊子を作成し、高瀬・楯山・山寺地区住民へ全戸配布を行った。
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域の方からの困りごとの調査 2.地域にある社会資源の情報収集 3.免許自主返納についての調査 4.協力機関への連絡・調整 5.印刷業者との打ち合わせ 
成果または感想	<p>地域の方との関りの中で、生活するうえで様々な困りごとを「暮らし・なかま・けんこう」に分類し、地域にある社会資源を入れることで地域の方にも「あの店で配達してくれるんだ。」等と冊子を見て知って頂いたという声も聞かれた。また、イラストで困りごとや社会資源をまとめることで、地域の方にも分かりやすく表現できたのではないかとと思われる。地域の商店や医療機関のご協力もあり、冊子として形にすることができた。免許センターへの取材で、なかなか聞くことのできない自主返納について載せることができたので、地域の方には考えるきっかけとなったのではないかと思う。</p>

3 地域包括支援センター敬寿会

1 総合相談業務



◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
2月27日 (中止)	令和元年度の活動報告、次年度に向けて ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
6月26日	東沢	講演『認知症の知識と予防について』 講師：認知症初期集中支援チームおれんじサポートチームえがお 保健師 船田 真理子氏 介護福祉士 池田 比呂美氏 グループワーク ・今日からできる認知症予防とは？ ・寸劇から考える～自分ができることは何だろう～
7月 9日	鈴川	
10月25日	東沢	講演『認知症の理解・徘徊のメカニズム』 講師：認知症初期集中支援チームおれんじサポートチームえがお 認知症の方への声掛け訓練 講評：山形警察署あこや交番 所長

◇ いきいきサロン等への参加 14回

◇ 地区役員定例会への参加 25回

◇ 地区行事への参加

東沢地区： 東沢地区民生委員児童委員・福祉協力員研修会「福祉のしおりの説明」
東沢まつり、東沢地区地域福祉推進会議

鈴川地区： 鈴川地区社協評議委員会 鈴川地区単身高齢者ふれあい地域交流会
鈴川地区福祉協力員研修会「福祉のしおりの説明」
鈴川地区各ブロック三者懇談会、双月第1町内会福祉マップ作成
鈴川交流センターまつりことぶき荘運動教室
地域福祉活動センター「いきいき百歳体操」、だれでもお茶のみサロン
鈴川交流センター「いきいき百歳体操」、シニアカフェ
鈴川地区地域福祉推進会議、チーム鈴川情報交換会

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

- ◇ 消費者被害防止の啓発講話 1回
- ◇ 認知症サポーター養成講座 1回



3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 圏域内居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護事業所事例検討会 1回
- ◇ ケアマネジャーカフェ 1回
- ◇ 個別支援型地域ケア会議 2回

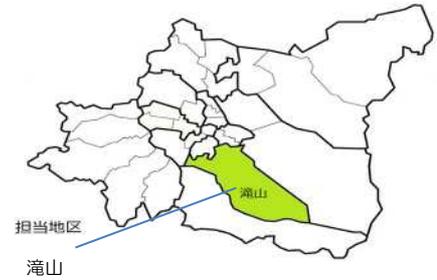
4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 介護予防教室 3回
- ◇ 通いの場の立ち上げ支援 2回

紹介したい取り組み

事業名	鈴川交流センター「いきいき百歳体操」	東沢地区ネットワーク連絡会・認知症声掛け訓練
事業の目的	鈴川地区住民の介護予防	認知症高齢者の対応方法を体験する
事業概要	<p>鈴川交流センターを福祉の拠点とし、鈴川地区の介護予防の活動として週1回開催。鈴川交流センター協議会役員を交えた協議を複数回開催し、開催方法等検討。その後鈴川地区北部連合町内会長の会議にて説明会を開催したうえで、8月より開始。</p> <p>近隣町内へのチラシの回覧を行い、参加者は地域を限定せず開催。社協のボランティア講習受講者が中心となり毎回会場の準備・あとかたづけを参加者みんなで行っている。</p>	<p>東沢地区関係者（町内会長・民生児童委員・福祉協力員）に認知症の方への声のかけ方を体験していただくため、おれんじサポートチームえがおをはじめ、東沢地区の居宅介護支援事業所・グループホーム・あこや交番に協力いただき開催した。</p> <p>実際に地域へ出ていき体験していただく予定だったが、当日は雨天であったことから、コミュニティセンター内での開催となった。</p>
成果または感想	<p>参加者の中には体操の後、近くのスーパーのフードコートでお茶を飲みながら交流しているグループもできている。口コミで鈴川地区外からの参加も見られるなどいきいき百歳体操がきっかけで交流の輪が広がっている。</p>	<p>実際に知らない高齢者に声をかけるということに対しハードルが高いと感じている参加者が多かったが、皆さん工夫を凝らして声をかけてくれていた。繰り返し体験していくことで自信がつくと思うので、また開催して欲しいとの声が聞かれ関心の高さがうかがえた。</p>

4 たきやま地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月24日	平成30年度活動報告・令和元年度活動計画について グループワーク「認知症の方を支援するための連携」
3月19日 (中止)	令和元年度活動報告 認知症の方を地域で支える体制について ※コロナウイルス感染防止のため中止

- ◇ いきいきサロン等への参加 25回 ※コロナウイルス感染防止のため1回は中止
- ◇ 地区役員定例会への参加 12回 (民生委員児童委員協議会定例会)
1回 (地区社会福祉協議会幹事会)
- ◇ 地区行事への参加
滝山地区：福祉推進会議、福祉研修会、介護予防の集い(18回)、社会福祉協議会代議員総会、福祉協力員研修会、花はな会(4回)等
- ◇ センターだよりの発行 5回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 2回 ※コロナウイルス感染防止のため1回は中止
- ◇ 認知症サポーター懇談会 1回
- ◇ 出前講座(権利擁護に関する内容) 18回



3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 介護支援専門員連絡会(研修会、事例検討会等) 1回 ※コロナウイルス感染防止のため1回は中止
- ◇ 介護保険サービス事業所連絡会 1回
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 9回
- ◇ 地域ケア会議 10回
- ◇ ボランティア懇談会 1回
- ◇ 認知症カフェ 5回 ※コロナウイルス感染防止のため1回は中止
- ◇ れとろカフェ 6回
- ◇ 漢カフェ 3回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座(介護予防に関する内容) 37回 ※コロナウイルス感染防止のため2回中止
- ◇ 介護予防の集い 18回
- ◇ 通いの場の立ち上げ支援(体操指導・体力測定) 28回
- ◇ 認知症予防教室 4回

紹介したい取り組み



事業名	漢カフェ
事業の目的	男性が気軽に集う場を設定し、情報共有したり新たな活動の取り組みをとおして、超高齢社会を共に生き抜くための意気を高める。
事業概要	退職後の男性を対象に介護予防の必要性を啓発し、健康的なシニアライフを送るために取り組みたいことについて意見を交わした。
成果または感想	参加者からは「女性が多いサロンには入りにくいが、男性だけなので気軽に参加できた」と好評だった。「若い頃に楽しんだスポーツを再開したい」、「地区の歴史を学びたい」等様々な声が聞かれたが、一歩踏み出すことに躊躇している方が多かった。今後コーディネーターと連携し、サークル活動のマッチングや横のつながりを活かした主体的な取り組みができるよう後押しする。

事業名	れとろカフェ
事業の目的	学生主催の通いの場の立ち上げにより、若い世代との交流や新たな地域資源を開発する。
事業概要	昭和 30 年～60 年代の文化や流行の変遷を学生が作成した映像で振り返り、回想法を取り入れた認知症予防や世代間の交流を促した。
成果または感想	駄菓子や飲み物を味わいながら映画や歌を鑑賞。参加者からは「若い頃を思い出して気持ちが明るくなった」等の声があがった。学生の視点で編集したスライドも好評で、若者の視点を取り入れたカフェは懐かしくもあり新鮮な雰囲気だった。



事業名	子ども高齢者見守りネットワークの構築
事業の目的	圏域内の介護サービス事業所と地域が連携し、子どもや高齢者が安心して暮らせる地域づくり
事業概要	滝山小学校学区内の12の介護サービス事業所に子ども110番連絡所を設置した。また、小学生を対象に認知症サポーター養成講座を開催し若い世代の認知症の理解を促した。高齢者見守りと子どもの防犯機能を併せ持つ地域の拠点づくりを進める。
成果または感想	介護サービス事業所には、子どもの目につきやすい場所に連絡所のプレートを設置してもらった。小学生の見守り一斉下校に同行したところ、子どもたちは普段から通学路にあるサービス事業所をよく認知しており、緊急時に立ち寄りやすい場所であることが分かった。次年度は高齢者見守りのプレートも設置し、高齢者や子どもが困ったときに立ち寄れる拠点として見守り体制を強化する。

5 地域包括支援センターふれあい



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会開催

開催日	主な議題
9月27日	テーマ 「共生社会を目指して-みんなの顔が見える地域へ-」 共催: 第六地区社会福祉協議会・生活支援コーディネーター・ふれあい 生活支援コーディネーター、丸ごと相談員、包括、障がい支援センターからそれぞれの立場から話題提供をしてもらい、その後は圏域内の高齢者関係、障がい者関係 児童関係者によるグループワークを実施
3月13日 (書面協議)	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。 (後日、書面にて意見を聴取)

◇ いきいきサロン等への参加 24回

◇ 地区役員定例会等への参加 18回
(民生委員児童委員協議会定例会・第六地区社会福祉協議会事務局会議)

◇ 地区行事への参加
第六地区：地区社会福祉協議会総会（事業開催に向けた会議等にも参加）福祉協力員研修会、老人クラブ総会、福祉推進会議、町内会総会、等

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座 3回

◇ 認知症サポーター勉強会 4回

◇ 認知症サポーターGH訪問（圏域2ヶ所のグループホームから協力） 7回

◇ 認知症カフェ（ふれあいほっとするカフェ） 4回

◇ 消費者被害防止啓発ボランティア交流会 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員連絡会・情報交換会 4回 ◇ 医療関係者連絡会 1回

◇ 福祉関係者交流会 1回 ◇ 「支え合い事業」プロジェクト 4回

◇ 介護ふれあい交流会サポート 4回 ◇ 市営団地懇談会(末広・あずま町) 2回

◇ サービス事業所連絡会・地区貢献支援活動 9回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ ふれあい健康講座（口腔・栄養・運動・服薬について全5回シリーズで実施）
- ◇ 通いの場継続支援（11カ所の通いの場に巡回、体力測定(8回)）
- ◇ 健康かわら版の発行(年2回)
- ◇ 出前講座（介護予防 認知症 栄養講話・・・） 26回

紹介したい取り組み

事業名	第六地区支え合い事業「ボランティアスクール」	
事業の目的	日常生活の中で「ちょっとした困り事」を抱える高齢者などが増えている中、介護保険や公的支援が該当しないような困り事については身近な住民が支え合い、安心して暮らせる六地区を目指し、地域での支え合いネット作りを行う	
事業概要	<p>第6地区では2018年に自治推進委員、地区社協、生活支援コーディネーター、包括支援センターが共同で支え合いについてのアンケートを全27町内会の協力を得て実施。アンケート調査の結果の中から特に困っている①除雪②ゴミだし③草取り④話し相手・困り事相談を地区住民間で助け合いができないかとプロジェクトチームを立ち上げて今年で3年目になります。1年目は除雪・ゴミだしの支援、2年目は草取り、話し相手・困り事相談について検討し、地区社協と町内会を中心に徐々に浸透してきている所です。支援するに当たりサポーターの充実が必要との意見が出て、プロジェクトメンバーの地区社協、老人クラブ、生活支援コーディネーター、包括支援センターでボランティアスクールの企画を行い令和2年2月19日に南部公民館で第六地区初のボランティアスクールを開講しました。</p>	
成果または感想		<p>当日は6地区住民、36人の方にご参加頂き、年代も40歳～60歳代と幅広い参加層でした。午前中はボランティアや傾聴についての講義を受け、午後からは南沼原地区で地域の有志でボランティア活動をされている「かえるの会」さんをお招きして立ち上げの経緯や活動のお話を聞き、その後はグループワークを行いました。一番の成果は参加してくれた方々が笑顔で楽しくボランティアについて学んでいた事が一番嬉しく感じた事でした。アンケートの声も「高齢なのでできる事が限られています。相談事とか話し相手のボランティアならできるので、その方法を学んでみたい」や「毎年1、2回ぐらい開催して頂き一人でも多くの方が参加し継続してもらいたい」などボランティア活動に対して好意的な意見を伺う事ができました。今後も地区社協や生活支援コーディネーター、地域の方と共同でボランティアスクールを継続し、活動に参加して頂ける方を増やし、ボランティアの町「第6地区」になればと考えております。</p>

6 山形西部地域包括支援センター



南山形・本沢・大曾根・西山形・村木沢

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
12月18日	「地域全体で高齢者の日常生活を支えるために」 ～地域づくりの推進を地域の関係機関と共に～

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
7月17日	南山形	報告：平成30年度包括支援センター運営状況 情報交換 「地域全体で高齢者の日常生活を支えるために」 ・令和元年度地域への支援計画について
6月26日	本沢	
7月5日	西山形	
7月23日	村木沢	
7月2日	大曾根	

◇ いきいきサロン・通いの場への参加 70回

◇ 民生委員児童委員定例会/村木沢丸ごと相談会への参加 27回

◇ 民生委員との個別の情報交換会等への参加 11回

◇ 地区関係者・住民向け研修会/会議/行事等への参加 28回

◇ 主な地区行事への参加

南山形：地域福祉推進会議・子供ネットワーク会議、福祉協力員研修会、福祉道場

本沢：三者懇談会、福祉協力員研修、サロン座談会、買物バス交流会、相談員情報交換

西山形：地域福祉推進会議、福祉協力員研修会、はつらつ元気教室

村木沢：地域福祉推進会議、社会福祉部会/福祉協力員委嘱状交付式、敬老会

大曾根：地域福祉推進会議、福祉マップ研修会、文化のまつり、担い手育成事業、

◇ はつらつ生活出前相談の開催（医療福祉情報） 12回（黒沢いこい荘/大曾根さわやか荘）

◇ 西山形介護者サロン「いっぶぐ会」 12回（集会所やコミセン）

◇ 認知症カフェ 11回（市営南山形住宅） 6回（みこころの園南山形）

◇ 本沢地区元気もりもり応援隊活動支援 16回

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 1回
- ◇ 金融機関との情報交換会（認知症への理解と対応等） 1回
- ◇ 出前相談等（消費者被害/エンディングノートの紹介等） 5回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 個別地域ケア会議の開催 8回
- ◇ 圏域内居宅連絡会（医療機関/主任CMとの情報交換等） 4回
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 8回

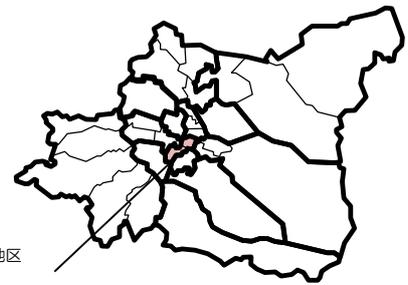
4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 介護予防講座:西山形はつらつ元気教室（コミセン/地区共催） 2回
- ◇ いきいきサロン・通いの場への参加 前記

紹介したい取り組み

事業名	西山形介護者サロン「いっぴぐ会」100回記念
事業の目的	介護についての不安や悩みについての交流の場
事業概要	<p>事業開始：平成22年11月～ 会場：西山形コミセンまたは各集会所 対象者：介護している方やご家族の介護を経験された方、介護に関心のある方 時間：第3木曜日 午後1時30分～3時 広報：毎月のコミセンだよりに掲載 各民生委員より地区回覧と戸別配布</p>  <p>（100回記念の内容） 主催地区社協、民生委員、関係者での打ち合わせを何度も行い、西山形コミセンにて手作りのくす玉、持ち寄ったお花を飾り、会場準備をしました。 当日は、総勢90名の参加がありました。3組の出し物は大盛り上がり、悪戸芋を使った芋煮とおにぎりは、「おいしい」と大好評でした。参加者からも、普段のサロンでは「介護の大変さをわかり合うことができる。前向きに介護に取り組める」とお話しがあります。</p>
成果または感想	<p>普段は1年かけて地区の方々と各集会所を回っているサロンですが、この度は長年開催できた達成感を関係する方々で共有することができました。参加者の声、喜ぶ顔が取り組みの励みとなりました。</p>

7 篠田好生会さくら地域包括支援センター



担当地区
第一・第二

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	
3月11日 (中止)	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
9月13日	第一	テーマ「個別地域ケア会議について」 ～住民による支え合いと公的支援がつながり、 安心して生活できる地域へ～ ① 個別地域ケア会議についての説明 ② 個別地域ケア会議を行った事例紹介、グループワーク
9月6日	第二	テーマ「個別地域ケア会議について」 ～住み慣れた第二地区で暮らしていくために～ ① 個別地域ケア会議についての説明 ② 個別地域ケア会議を行った事例紹介、グループワーク

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 6回
- ◇ いきいきサロンへの参加 81回
- ◇ 地区役員定例会への参加 53回（民生委員協議会定例会 等）
- ◇ 地区行事への参加

第一地区：正副会長会、寿会総会、地区社会福祉協議会理事会、地区社会福祉協議会総会、福祉協力員研修会、福祉推進会議、福祉懇談会、正副会長会新年会、各町内会行事

第二地区：福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、第二地区高齢者・小学生のつどい、上町第四町内会介護講座、双葉町寿会、地区社会福祉協議会総会、地区社会福祉協議会事業打ち合わせ会、各町内会行事等

- ◇ 出前相談 98回
- ◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 2回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 3回

◇ 圏域内居宅連絡会（医療機関/民生委員との情報交換会、事例検討会等） 3回

◇ 介護支援専門員への個別支援 49回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 15回

紹介したい取り組み

事業名	おれんじカフェ さくら（第一地区認知症カフェ）
事業の目的	第一地区住民の方々々の健康維持・認知症予防を支援する。
事業概要	主催は当センターで、第一地区社会福祉協議会が共催。平成30年11月に試験的に開催し令和元年より偶数月の第三金曜日に固定し開催している。まなび館百歳体操の後に、そのまま場所を借りている。おれんじサポートチーム、生活支援コーディネーターと企画。内容は、認知症のミニ講座・脳トレ体操・音楽（ボランティアに依頼）・談話。同時に専門職の相談窓口も開催（我が事・丸ごと地域づくり事業）。
成果または感想	地区役員の方が会場準備を手伝い、地域の認知症サポーターの方もスタッフとなっている。毎回20名弱の参加あり。住民の方々々が認知症への理解を深め、心配な方を見かけたら気にかけてくれるような見守りのある地域となればと思う。カフェに参加して仲間とつながり、様々な情報交換ができる場としていきたい。 
事業名	チームわん・つー！（圏域内福祉関係事業所の集まり）
事業の目的	圏域内事業所（他機関同士）の横のつながりを持ち、情報交換をする。地域の事業所や専門職と地域がつながれる機会をもてるようにする。
事業概要	ネットワーク連絡会を通じ、地域内の医療・介護・障害の専門職同士が顔を合わせて情報交換ができる場が必要ではないかとの声が上がリ、令和元年6月より2カ月に1度開催している。圏域内施設や地域の百歳体操の見学をしたり、情報交換を行った。 
成果または感想	情報交換では、イベント開催時の場所や駐車場の相談があり、他施設や地域の協力でイベントも成功することができたとのこと。専門職同志がつながり、また、地域ともつながる事で、気軽に相談でき安心して暮らせる地域になるようにしていきたい。
事業名	すこだま元気塾
事業の目的	第一、第二地区住民の方々々の健康維持を支援する。
事業概要	今年度で3回目の開催。当センターが主催となり、企画・講師派遣調整等を行い、地区社会福祉協議会が共催となっている。第一・第二地区ともノルディックウォーク体験を公認インストラクターの指導の下に行った。
成果または感想	「一人ではできないが、皆と一緒に楽しくできて大変よかった」 「歩幅が大きくなり、背筋が伸びてよくなった」と参加者からも好評を得た。 今後も地域の方々の声を聞きながら内容に反映していきたい。 

8 地域包括支援センターかがやき

1

総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会



開催日	主な議題
6月20日	① 平成30年度事業報告 ② 令和元年度事業計画 ③ 関係機関連携推進会議（「かがやき会議」）実施報告 ④ 事例紹介「何度も保護されている認知症高齢者とご家族への支援」 ⑤ グループディスカッション：紹介事例に関する感想やご意見 グループ発表
3月12日 (中止)	① 令和元年度事業実績報告 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

◇ 地区ネットワーク連絡会 2回（第3地区は感染防止のため中止）

◇ 地区役員定例会への参加 3回

◇ 地区行事への参加（一部のみ記載）福祉協力員連絡会・研修会、地区社会福祉協評議員会総会、地域福祉推進会議、地域福祉研修会・懇談会、北部公民館つながり支援講座等 多数

◇ センターだよりの発行 4回（4月・7月・10月・1月発行）

2

権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座の開催 1回（認知症地域支援推進員と連携）

◇ 権利擁護相談 42回（新規相談として受付した相談のみカウント）

生活保護・生活困窮に関する相談が9件、虐待（疑い含）22件、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業に関するもの10件 その他7件となっている。虐待に関する相談は過去5年で3-6-9-10-21（延べ件数）と右肩上がりに増えている。困窮関係の相談と昨年の1/3になっている。年によって慎重な対応が求められているが、身寄りが無い、親族関係が悪い、地域との関係が希薄など見られるほか、複合的な背景や問題につながるケースも多い。近所で大きい声で怒っていることが続いている（本人が難聴だった）などの相談もあり、近年、住民意識の高まりも虐待に関する相談件数の増加につながっていると考えられる。

3

包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 5回

◇ 圏域内事例検討会 1回（さくら地域包括支援センターとの合同開催）

◇ 圏域内介護支援専門員連絡会 4回（連絡会・研修会）

◇ 認知症カフェにおいて 住民との対話

介護支援専門員研修会 4/12・5/21・6/17・10/23・1/29	個別支援 (介護支援専門員からの相談に対する対応)
<p>名称：・圏域内主任介護支援専門員情報交換会 ・さくら、かがやき包括支援センター合同事例検討会 ・圏域内介護支援専門員情報交換会</p> <p>内容：・ランチミーティング ・圏域内介護支援専門員情報交換会 ・ランチミーティング 講座「総合事業について」 「定期巡回型訪問介護・看護について」 ・「多職種連携のコツ」 訪問診療クリニックやまがた 奥山慎一郎先生</p>	<p>・圏域内の利用者を担当している居宅支援事業所・小規模多機能型居宅介護支援事業所の介護支援専門員からの相談に対応している。主なものとしては、個別ケースへの対応方法に関することが多いが、その中でも精神疾患のある高齢者や家族への対応、高齢者虐待や経済困窮、認知症に関すること等様々な相談に対応した。</p> <p>対象なる方も高齢者に限らず児童、障がい者、精神疾患等多様化しており、支援するにあたり関係機関との連携が欠かせず、包括職員の対応力向上も求められている。個別ケースの対応に関する相談を受ける事で包括職員のスキルも向上し、行政、医療機関、社協、民生委員、介護支援専門員等必要な関連機関と連携がとれた。</p> <p>予防給付を業務委託している居宅支援事業所とは、委託しているケースを通して個別の相談やケアプラン作成についての相談に依りており、介護支援専門員とともに利用者宅の訪問や、カンファレンスへ参加した。</p> <p>年3回の地域ケア会議への事例検討に際し、介護支援専門員との事前協議や助言を行った。</p>

4 介護予防ケアマネジメント業務

「住民主体の通いの場」については引き続き、予防推進係及び生活支援コーディネーターの協力を得て、立上げ支援・継続支援等を行なった。開催場所として、地域内の介護事業所などに場所の提供をお願いしている。住民が主体となって運営が継続的に行われている。

◇ 介護予防教室 述べ 1021 名参加

紹介したい取り組み

◇ 「シニアライフをかがやかせるための仲間づくり・健康づくり講座」

10月～11月にわたり全4回、フレイル予防の取り組みとして実施し、多数の方々から参加いただき好評を得た。アンケート結果の満足度も非常に高かった。令和2年度も一部内容変更して実施予定。

10/29・11/5・11/12・11/19 (場所：北部公民館 3階大ホール)

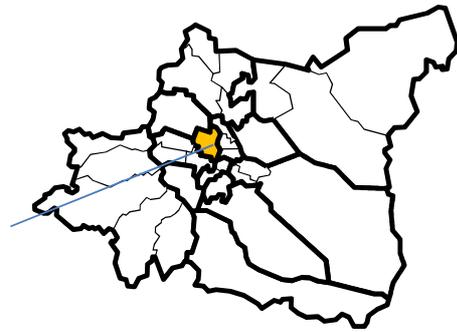
「基礎知識・フレイルチェック」「運動・フレイル予防筋トレ①」

「栄養・フレイル予防メニュー」「運動・フレイル予防筋トレ②」

「口腔機能・オーラルフレイル」「社会参加・音楽療法」「運動・フレイル予防筋トレ③」

「社会参加・スマートフォン体験利用」「運動・フレイル予防筋トレ④」

9 山形市社会福祉協議会
霞城北部地域包括支援センター



担当地区
第七

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度 活動実績報告 ・平成31年度 活動計画と支援計画について協議 ・個別ネットワークの構築についての協議 ・ネットワーク交流会について協議
3月12日 (中止)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 活動実績報告・支援計画と重点活動振り返り ※新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止とした。

◇ 地区ネットワーク交流会

開催日	地区	主な議題
11月13日	第七	① ミニ講話 「私の認知症未来予想図」 講師：小規模特別養護老人ホームおおそね 山川淳司施設長 ② カフェタイム ミニ講話についての感想やその他情報交換 ③ 質問コーナー

◇ いきいきサロンへの参加 9回

◇ 地区行事・会議への参加

福祉協力員ブロック代表者会議、地区社協評議員会、福祉協力員研修会、
三者懇談会（北町・城北町・清水町・城西二区）、第七地区健康推進事業、地域福祉推進会議、
第七地区子育てサロン

◇ 出前相談 1回（第七地区健康推進事業）

◇ センターだよりの発行 4回

（65歳以上高齢者宅全戸・公民館・コミュニティセンター・金融機関・医療機関・歯科医院・薬局・
交番・介護保険事業所・ガソリンスタンド・コンビニエンスストアに配布）

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座 1回

◇ 西田2丁目サロン 成年後見制度について 講座 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 介護支援専門員への個別支援 11回 ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 8回
- ◇ 介護支援専門員連絡会（霞城西部と合同）1回 ◇ 医療連絡会（霞城西部・金井と合同開催）1回
- ◇ 金融機関連絡会（霞城西部・金井と合同）1回
- ◇ 介護支援専門員・サービス事業所研修会（霞城西部・金井と合同）1回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 24回

紹介したい取り組み

事業名	いきいき健康教室（江南公民館共催）
事業の目的	認知症や介護予防を学べる機会をつくることで、地域住民の認知症に対する理解、認知症予防の意識の向上を図り健康寿命を伸ばしていくことを目的とする。
事業概要	おれんじサポートチームえがおと協働し、認知症に対するミニ講話を実施し、その後講話についての感想や質疑応答、情報交換を行った。
成果または感想	難しく認知症を学ぶのではなく、ミニ講話という形での開催や参加者同士がそれぞれの認知症予防や介護予防に関する取り組みをお互いの話を通して、刺激を受けることになっていた様子だった。
事業名	第七地区ネットワーク交流会
事業の目的	認知症になっても住みやすいまちづくりをめざして、認知症カフェなどを通じ認知症の理解と予防を地域ですすめていくことの必要性を理解していただく。
事業概要	認知症に対するミニ講話を実施し、その後講話についての感想や質疑応答、情報交換を行った。
成果または感想	第七地区は認知症の予防への意識は高い、一方、認知症の方・家族の方への支援の視点で話を聞く機会は少なく、今回のミニ講話・情報交換で認知症になった方への支援という視点での見守りへの意識づけになった。



～いきいき健康講座～



～第七地区ネットワーク交流会～

10 山形市社会福祉協議会
霞城西部地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月26日	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度活動実績報告について 霞城西部地域包括支援センター地域への支援計画について意見交換
2月13日	報告 (1) 活動実績 (2) 各地区のネットワーク構築のための活動 (3) 各機関との連携取り組みについて (4) 地域ケア会議 (5) 介護予防等について出前講座 (6) 認知症サポーター養成講座開催 意見交換

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
8月26日	第十	『住み慣れた地域で支え合い、健やかに生きがいをもって暮らせるまちづくりをめざして』～思いやりのある声がけ～ ① おれんじチームから“体験してみよう、お互いの気持ち”思いやりのある声がけとは・・・問題提起 ② 認知症の方に3つの場面設定で、グループ毎に声をかける側、かけられる側、観察者の役割になり、ロールプレイ ③ ロールプレイでの感想を踏まえて、地域で取り組んでみたいことをグループ討議
10月29日	榎沢	① 『健康で自分らしく暮らし続けるために』認知症について考える・・・講師：おれんじチーム ② グループワーク ・認知症の地域事情について情報交換 ・今後の重点取り組み等を討議
11月17日	飯塚	『高齢者の買い物と移動手段について』 ① 基調講演 ・飯塚地区の交通課題への取り組み：包括 ・山形市の交通施策について：市企画調整課 ・飯塚地区の生活交通を考える：やまがた福祉移動サービスネットワーク ② グループワーク 5年10年後、高齢者になり運転免許証返納時の買い物と外出移動手段について

◇ いきいきサロンへの参加 4回 ◇ 地区役員定例会への参加 11回

◇ 地区行事への参加 19回

第十地区：町内会長民生委員児童委員福祉協力員合同研修会、地区社協総会、福祉協力員世話人会、福祉協力員代表者会、地域福祉推進会議、町内会長福祉懇談会
認知症カフェ企画検討チーム、城西一区三者懇談会、低栄養予防の取り組み

飯塚地区：地区社協評議員会、福祉協力員研修会、区長会議、三者懇談会、地域福祉推進会議、文化祭、ふれあいいきいきのつどい、バスの乗り方講座、飯塚地区の交通を考える会

榎沢地区：地区社協総会、地区社協評議員会、地域福祉推進会議、文化祭、福祉協力員研修会、我が事・丸ごと地域づくり推進事業検討会

- ◇ 出前相談 2回 (ヤマザワ健康相談)
- ◇ センターだよりの発行 4回 (秋号は全戸配布)

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 5回
(大原学園、山形商業高、第十地区・圏域居宅、榎沢福祉協力員研修会)
- ◇ 出前講座(権利擁護に関する内容) 1回(消費者トラブルについて)

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 介護支援専門員個別支援 31回 ◇ 介護支援専門員連絡会(霞城北部と合同) 1回
- ◇ 地域ケア会議 5回 ◇ 包括中央ブロック情報交換会 4回
- ◇ 金融機関連絡会(霞城北部と合同) 1回 ◇ 医療機関連絡会(霞城北部・金井と合同) 1回
- ◇ 認知症カフェ 2回 ◇ 居宅・サービス事業所研修会(霞城北部と合同) 1回
- ◇ 出前講座(介護保険制度) 1回

4 介護予防ケアマネジメント業務

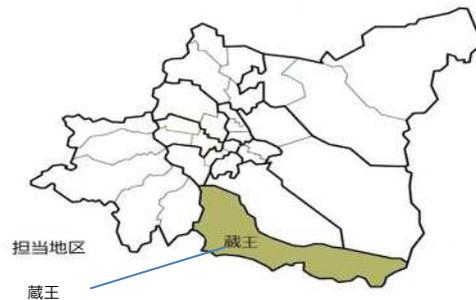
- ◇ 出前講座(介護予防に関する内容) 12回
- ◇ 年2回体力測定の日程調整、測定補助 5回



紹介したい取り組み

事業名	おれんじカフェ in 大原学園
事業の目的	第十地区では、認知症になっても住み慣れた地域で支え合い、健やかに生きがいをもって暮らせるまちづくりを目指して、いち早くH30には、認知症声かけ訓練等の取り組みを行ってきた。地域での見守り体制づくりを行うとともに、認知症になっても集える場所が必要という認識に至り、地域と様々な関係機関が連携をしながら、地区内に認知症になっても気持ちよく過ごせる居場所を作っていくことになった。
事業概要	第1回：地区社協、町内会、大原学園等と認知症カフェ開設について協議。認知症の方やその家族、地区住民が集える場所、地域住民の認知症への理解を図れる場所、また相談窓口にもなれる場の必要性を共通認識した。その上で、7月におれんじチームや圏域の専門職の方の協力を得て開催した。 第2回：1回目に結果を踏まえて、認知症カフェ企画検討チームを立ち上げ、認知症カフェ開催実施していくことになる。その中で、参加する人もおもてなしをされる側ではなく、お互いにできることはしてもらおう形態のカフェにしていこうと、飲みものなどセルフサービスによる提供に変えて実施することになり、11月に開催した。
成果または感想	・2回目の開催時には認知症の方とその家族の参加の連絡があったが、当日になり体調不良で不参加となり、認知症の方の参加はできていない。地域住民にとっての学びや居場所にとどまっておらず、来年度認知症の方にはいかに参加いただくか課題である。 ・大原学園の学生のボランティア参加があり、若い方との交流の場として参加者からは好評をいただき、継続開催や定期開催の希望が聞かれた。 ・セルフサービス形式にしたことや認知症カフェ企画検討チームでの開催にできたことで、負担は軽減し、来年度に向けて3回程度を予定することができた。

11 蔵王地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月25日	【報告事項】 ・蔵王地区町内会会長アンケート集計結果について ・平成30年度地域包括支援センターに寄せられた相談支援の分析 ・蔵王地区の介護予防の取り組みについて 【協議】 テーマ「5年後、10年後を見据えた支えあいの仕組みについて」
3月12日 (中止)	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 2回
- ◇ いきいきサロンへの参加 54回
- ◇ 地区役員定例会への参加 25回（民生委員児童委員協議会定例会等）
- ◇ 地区行事への参加

町内会連合会総会、福祉協力員研修会、蔵王地区まつり、蔵王ふれあい集会、三者懇談会等
 蔵王コミュニティセンターとの共催事業：蔵王地区健康教室、蔵王地区シニア健康づくり事業

- ◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 3回
- ◇ 出前講座（権利擁護に関する内容） 1回



3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 2回
- ◇ 圏域内介護支援専門員連絡会（研修会、事例検討会等） 3回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 15回

紹介したい取り組み

事業名	蔵王地区健康教室（地区社会福祉協議会、蔵王包括支援センター共催事業）
事業の目的	蔵王住民に対する介護予防の意識啓発と健康寿命を延ばすための支援
事業概要	月1回 90分程度、蔵王コミセンにおいて、いきいき百歳体操を介護予防に特化した講話や知識習得の機会とする。
成果または感想	地区に高齢者だけでなく、地域関係者や近隣の介護サービス施設の利用者も参加し、介護予防の意識啓発だけでなく、顔つなぎの機会となっている。
事業名	若年層への認知症サポーター養成講座の開催
事業の目的	若い世代に認知症を正しく理解してもらう
事業概要	地域の中学校と看護学校の協力を得て、毎年認知症サポーター養成講座を開催している。
成果または感想	核家族が増加する中、普段の生活では高齢者と触れ合う機会が少ない子供も多く、認知症について理解を深めるよいきっかけ作りになればと考える。
事業名	町内会単位での、ふれあい・いきいきサロンへの積極的な職員派遣
事業の目的	蔵王地区住民の介護予防啓発とネットワーク構築
事業概要	ふれあい・いきいきサロンへ職員が定期的に訪問し、健康講話、旬な話題の提供、情報の伝達を行い、介護予防の意識を高められるような支援。また高齢者の異常時には速やかにつなぐ、気づくネットワークを構築する。
成果または感想	地域の民生委員、福祉協力員、町内会役員等、地域関係者とのネットワーク構築が推進できた。



山形市立蔵王第一中学校学校運営協議会
「認知症サポーター養成講座」



ふれあい・いきいきサロンへの職員派遣

12 済生会愛らんど地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月25日 (第八地区)	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業報告 令和元年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業計画 今年度の活動内容および地区の動向について ⇒各地区ごとで開催するようになり2年目。包括と各地区、各事業所と縦のつながりは構築されているが、地区と事業所、住民と事業所、事業所同士の横のつながりを促進できる会議を目指したい。また今後の方向性として、高齢者の枠にとどまらない地域住民の総合相談という、包括に期待される役割も念頭に入れた会議を検討する必要があると感じた。
7月2日 (第五地区)	

◇ 民生委員児童委員との懇談会（第五・第八） 2回

◇ 公営住宅高齢居住者に関する懇談会

県営あたご団地1回 市営小白川住宅1回 市営松原住宅1回 市営天満住宅1回

◇ いきいきサロン・ふれあいサロン(高齢者のつどいの行事含む)への参加 18回

◇ 地区役員定例会への参加 19回

(民生委員児童委員協議会定例会、自治推進委員会、町内会長会、福祉協力員世話人会、社協事務局会)

◇ 地区行事への参加

第五地区：福祉協力員委嘱状交付・研修会、福祉協力員研修会、町内会会長総会、新任町内会長会、我が事丸ごと地域づくり推進モデル事業説明会、地域福祉推進会議打ち合わせ（新型コロナウイルス感染防止のため開催は中止）東部地区文化祭、新春交歓会、評議委員会、東部地区文化祭、サロン立ち上げ・運営継続の支援

第八地区：福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、我が事丸ごと地域づくり事業実施報告会、地区社協主催介護予防健康講座（けんこうクラブ）地区社協事業（おたっしゃクラブ）、障がい者生きがいづくり事業、自治会主催敬老会、芋煮会、評議委員会、東部地区文化祭、新春交歓会、サロン立ち上げ・運営継続の支援

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 民協定例会で高齢者虐待防止について情報提供

◇ 福祉サービス利用援助事業利用及び成年後見制度申し立て支援

- ◇ 山形地方検察庁主催ケア会議出席
- ◇ 救護施設入所支援

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 個別支援地域ケア会議の開催 5回
- ◇ 介護支援専門員に対する支援困難事例への個別指導・相談対応 11回
- ◇ 地域密着型事業所運営推進会議 4事業所 2ヶ月に1回開催出席
- ◇ 地域密着型通所介護事業所運営推進会議 4事業所 半年に1回開催出席

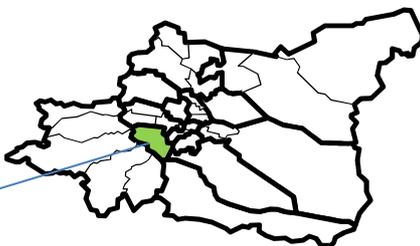
4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 住民の通いの場「貯筋クラブ」運営協力
- ◇ 愛らんど健康講座(長寿支援課予防推進係介護予防教室重点圏域につき共催)
内容:認知症予防(ファイブコグ実施)、運動指導人生会議(ACP)講座、栄養講座(調理実習) 延べ参加人数 150名
- ◇ 地域サロンにて介護予防に資する講話を実施(今年度は栄養指導重点)

紹介したい取り組み

事業名	公営住宅懇談会
事業の目的と概要	圏域内には公営住宅が複数ある。公営住宅そのものの老朽化、公営住宅入居者の高齢化や地域との関係の希薄化が進んでいることから、住民との情報交換、公営住宅関係者とのネットワークの構築、見守り体制の強化など目的に年1回各住宅毎に懇談会を開催することで、各関係団体連携の下情報共有をおこない、地域課題の抽出、解決に向けた方向性を検討実施している。
成果または感想	関係機関としてまるごと相談部門にも加わっていただき高齢者だけでなく子供、障害分野、またそこに携わる関係機関と情報共有することができた。懇談会の結果、サロンの立ち上げ、住民レベルの交流促進、住宅主催行事への参加依頼の増加、相談件数増加がある。また公営住宅入居者の状況を把握した結果課題である「住み替え」について、条件付きで可能であることが示され、収穫であった。さらに市営天満アパートにおいて、地域より「共用部分への手すり設置」の希望を伺い懇談会の場で要望したところ、手すりの設置が実現した。
事業名	愛らんど健康講座(介護予防教室重点圏域)
事業の目的	健康講座は経年的に開催している事業であるが、第7期計画策定におけるニーズ調査において、健康リスクの出現率が高く重点圏域の指定となって2年目である。当該年度も継続して長寿支援課予防推進係と共催し健康講座を開催した。
事業概要	対象：65歳以上の第五・第八地区住民(圏域内全体への介入) 内容：①認知症予防(ファイブコグ検査) ②人生会議～これからのことを考えよう～ ③足腰らくらく体操 ④簡単調理でバランスメニュー ②については各地域会場を設定し4回開催 全7回講座 延べ参加人数150名
成果または感想	講座のテーマとして人生会議(ACP)について取り上げ、ポピーの協力も得て開催した講座は、地域住民に新たな考え方として意識付けすることができた。栄養指導を目的とした栄養講座は定員を上回る申し込み者があり、関心の高さがうかがえた。「包括支援センターはこんなこと(健康講座)もするんですね」と包括業務の基盤となる地域住民の介護予防活動の理解も促進できたと考える。

13 南沼原地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月18日	地域を豊かにする「つながりづくり」を考えよう ①南沼原地区の交流の場の現状 ②活動紹介 ③グループワーク「男性も地域の中でいきいきと活動するためには」
2月8日	「世代や分野を越えて繋がる地域共生社会を目指して」 ～多様な機関を知ろう～ ①子育て支援、障がい者支援、生活困窮制度の狭間にある問題の三分野の 関係機関担当者による各機関の機能や役割、相談事例等についての説明 ②タンタンタッチ体操講習 ③グループワーク～各機関と地域との関わりについて～ ④町内会と介護保険サービス事業所との連携強化プロジェクト進捗状況

- ◇ 地域ケア会議(個別事例に関するもの) 6回
- ◇ いきいきサロンへの参加(バスの乗り方講習会含) 23回
- ◇ 地区役員定例会への参加 35回
- ◇ 地区行事への参加

地区社会福祉協議会総会・役員会・懇親会、知って得する認知症講座、民生委員協議会・三役会、地域福祉推進会議、町内会長との懇親会、福祉協力員研修会、各いきいき百歳体操、南沼原地区新年顔合わせ会、各町内会の敬老会、うたごえカフェ 等

- ◇ 出前相談 8回 ◇ センターだよりの発行 4回
- ◇ Facebookにて高齢者に役立つ情報の発信 174回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 1回 ◇ 認知症カフェ主催 9回
- ◇ 脳いきいきふれあいカフェ参加 8回 ◇ 知って得する認知症講座 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 圏域内介護支援専門員管理者連絡会 6回 研修会、事例検討会等 2回
- ◇ 圏域内小規模多機能管理者連絡会 7回 研修会、事例検討会等 2回
- ◇ 圏域内事業所連絡会 4回 ◇ 圏域内事業所連絡会おらっちょプロジェクト会議 9回
- ◇ 圏域内介護職員向け研修 1回 交流会 1回 ◇ 圏域内クリニック・薬局訪問 25ヶ所
- ◇ らくせいホール協議会定例会 11回 ◇ かえるの会定例会 5回

4 介護予防ケアマネジメント業務

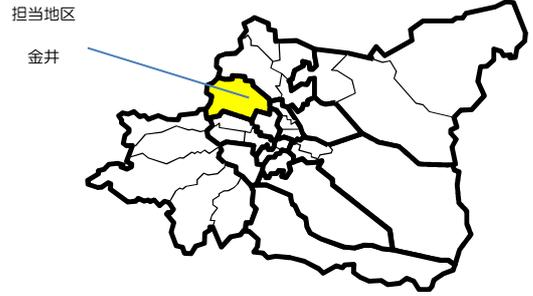
- ◇ 南沼原発生涯現役バリバリ講座 4回 ◇ ぴんぴん塾 45回

紹介したい取り組み

事業名	おらっちょプロジェクト～おらだの町内が一番だなぁプロジェクト～	
事業の目的	<p>住民と南沼原地区介護保険サービス事業所連絡会（※）が共に、町内会単位で地域包括ケアシステム構築を進める取り組み。</p> <p>※南沼原地区介護保険サービス事業所連絡会とは南沼原地区に所在する介護保険サービス事業所（22 の社会福祉法人・医療法人社団・会社）で組織され、平成 28 年度に開設。目的は、利用者へ質の高いサービスを提供し、介護職の離職防止や介護技術の向上を目指すために研修会や交流会を実施。また事業所同士のネットワーク形成。</p>	
事業概要	<p>① 各町内会を担当する介護保険サービス事業所（サポート事業所）が町内会の会議に参加し地域課題について住民と協議。</p> <p>② いきいきサロンや運動の場、町内会行事にサポート事業所も参加し、専門職が住民に役立つ情報を届けている。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染防止のため、地域活動や外出の自粛の影響による身体機能・認知機能の低下を防ぐため「居間から百歳体操（山形市社会福祉協議会製作）」の動画をサポート事業所が DVD にダビングし、希望する住民へ配布。（1 枚 50 円、空のディスク持参の場合は無料）。住民への周知は町内会役員が行った。</p> <p>④ サポート事業所が「身近な相談窓口」となるための取り組み。プロジェクトチームの会議を 10 回以上開催。次年度旗揚げ予定。</p>	 
成果または感想	<p>すでに住民の意見をいただいてオリジナルキャラクター入りのぼり旗、缶バッジが完成している。相談窓口機能を果たすため各事業所が包括作成の研修動画を WEB にて受講済み。将来的には企業や商店などにもこのプロジェクトに参加していただけるよう働きかけ、多世代が参加する思いやりの輪・支え合いの輪を広げていく展望がある。地区役員や事業所の主体性と想像力、行動力には驚きと感動がある。今後も SC とサポートしていく。</p>	

事業名	うたごえカフェの立ち上げ支援	
事業の目的	<p>閉じこもりの方で「運動の場には行きたくないが、歌を歌える場であれば参加したい」といったニーズがあり、立ち上げ支援を行う。</p>	
事業概要	<p>らくせいホールが平成 31 年 3 月に開所し、南館第一、あかねヶ丘 3、籠田 3 の町内会役員が協議体を結成し、ホールの運営を行っている。そのらくせい協議会へ住民ニーズを伝えたところ、民生委員より地区内在住の元音楽の先生の紹介があり、SC と民生委員と訪問。先生から協力を頂くことができ、毎月第三水曜日の開催に至る。</p>	
成果または感想	<p>うたごえカフェをきっかけにらくせいホールを知り利用者が増加。他者との交流が無かった方も参加し、心身機能の向上がみられる。またグループホームの入居者との交流により認知症の理解やグループホームの理解、そして助け合いの様子が見受けられる。参加者からの強い希望あり、令和 2 年度からは月 2 回開催の予定。</p>	

1 4 金井地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月18日	報告 <ul style="list-style-type: none"> 金井地域包括支援センター事業計画について 4月から5月の概況報告（金井地区高齢者・家族などから出されている意見や声） 我が事・丸ごと地域づくり推進のイメージ図について 協議 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者支援における関係機関の連携について <ネットワーク連絡会委員の所属機関の機能（現状）・役割（できること）について>
11月27日	報告 <ul style="list-style-type: none"> 第1回ネットワーク連絡会・ネットワーク交流会のまとめについて 10月までの概況報告 情報交換 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者支援における関係機関の連携について ① 地区内関係機関・団体と地域関係者と連携した個別支援の取り組み（個別地域ケア会議） ② 施設を活用した住民主体の取り組み（「住民主体の通いの場」の紹介・体操の体験会）
2月19日	報告 <ul style="list-style-type: none"> 委員の交代について 第2回ネットワーク連絡会の振り返り 1月までの概況報告 情報交換 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者支援における多機関連携の取り組みについて ① 施設を活用した住民主体の取り組みとその後の展開について ② 薬局の機能・役割・連携できること等

◇ 地区ネットワーク交流会

開催日	地区	主な議題
8月29日	金井	テーマ「我が事・丸ごと地域づくり」について ～高齢者支援ネットワーク構築の深化を図る視点から～ 話題提供：「地域共生社会の実現に向けた取り組みについて」 金井地区社会福祉協議会がすすめるモデル事業への取り組みについて 意見交換：「私たちができること、感想」

◇ 地域ケア会議（個別ケース） 7回 ◇ いきいきサロンへの参加 27回

◇ 地区行事・会議への参加

毎月…金井地区社会福祉協議会三役会、金井地区社会福祉協議会理事会、金井地区民生委員児童委員協議会定例会
 金井地区福祉協力員総会・研修会（年2回）金井地区社会福祉協議会評議員会、新江俣町内会三者懇談会（年3回）、新江俣町内会防災訓練、嶋南子育てサロン、金井子育てサロン、江俣町内会隣組長会議、陣場町内会三者懇談会（年3回）、やすらぎの里金井納涼祭、金井ふれあい広場関係会議、金井ふれあい広場、金井地区社会福祉協議会事業検討会、吉野宿町内会三者懇談会（年2回）、鮎洗町内会三者懇談会、陣場新田三者懇談会、金井地区地域福祉推進会議

◇ センターだよりの発行 4回

(65歳以上高齢者宅全戸・医療機関・歯科医院・薬局・交番・金融機関・介護保険事業所・ガソリンスタンド・コンビニエンスストア・金井コミュニティセンターに配布)

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座 1回 (金井地区住民、介護保険サービス事業所職員向け)

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 介護支援専門員個別支援 13回
- ◇ 介護支援専門員連絡会 2回
- ◇ 医療機関連絡会 (霞城北部・霞城西部包括と合同) 1回
- ◇ 金融機関連絡会 (霞城北部・霞城西部包括と合同) 1回
- ◇ サービス事業所連絡会 (霞城北部・霞城西部包括と合同) 1回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座 21回
- ◇ ジェントルマンいきいき講座(3回シリーズ)
- ◇ ソーレホーム江俣での住民主体の通いの場の立ち上げ支援 ◇ 栄養講座
- ◇ 金井コミュニティセンター主催いきいきかなみ講座(毎月2回)での情報の周知や講座の広報

紹介したい取り組み

事業名	ソーレホーム江俣での住民主体の通いの場の立ち上げ
事業の目的	「100歳体操などの場がもっとあるといい」「集会場まで遠い」などの地域住民の声と、令和元年8月のネットワーク交流会で「デイサービスの利用日でない日に施設のスペースを貸し出しすることができる」とソーレホーム江俣よりお話があったことから、地域住民の健康づくりの場、仲間・居場所・生きがいづくりの場、住民同士の支えあいの場を目的とし立ち上げ支援をおこなった。
事業概要	施設のある場所が隣接する町内会の境目にあり、町内会を限定せず幅広く参加者を募ることができる位置関係であることから地区社協会長、2町内会の町内会長、民生委員、ソーレホーム江俣施設長、生活支援コーディネーター、包括職員で話し合いをおこなった。話し合い後、令和元年11月より試行的に隔週日曜日10:00から1時間、100歳体操と介護予防に関するミニ講話をおこなった。
成果または感想	毎回地域住民の方、ソーレホーム江俣入居者あわせ20名ほど参加された。試行後の令和2年1月からはジェントルマンいきいき講座を受講された方々の中から立ち上がったボランティアグループ“金井昭和の会”のメンバーが開会のあいさつや椅子を並べたりするなど手伝ってくださるようになった。また地域住民の方々・ソーレホーム江俣入居者がDVDを再生する係や100歳体操終了後の後片付けや掃除なども積極的に行ってくださるようになった。現在は隔週であること、近隣町内会から住民が参加していることから、参加者を中心にそれぞれが所属する町内会でも「毎週体操ができる場が欲しい」「自分たちの集会場でやりたい」などの声があがることで通いの場が増えるきっかけとなればと考える。

15 山形市基幹型地域包括支援センター

1 地域包括後方支援活動

- ◇ 包括主催会議への参加 131回 (打ち合わせ等 33回)
ネットワーク連絡会、他各種連絡会、交流会、研修会、その他等
- ◇ 包括機能別部会の開催 73回 (打ち合わせ等 41回)
総合相談部会、包括的・継続的ケアマネジメント部会権利擁護部会、介護予防ケアマネジメント部会
- ◇ ブロック情報交換会16回 (打ち合わせ等 14回)
南西ブロック情報交換会、中央ブロック情報交換会、北東ブロック情報交換会
- ◇ 市主催会議(包括関連への参加) 6回 (打ち合わせ等 1回)
センター運営者会議、センター長会議、センター情報交換会 等
- ◇ ヒアリング・定期訪問 109回
ミーティング、センター内会議、業務会議 等
- ◇ 個別事例対応(同行訪問) 6回
- ◇ 主催・共催研修会の開催 14回 (打ち合わせ等 10回)

2 地域課題把握・解決業務

- ◇ 地域ケア調整会議への参加 3回 (打ち合わせ等 3回)
- ◇ 課題整理会議 38回 (打ち合わせ 19回)
- ◇ ワーキングチーム 8回 (打ち合わせ 6回)
- ◇ 自立支援型地域ケア会議の支援 14回 (打ち合わせ 40回)
- ◇ 個別ケア会議への参加 44回 (打ち合わせ 8回)

3 地域包括ケアシステム構築に関わる機関の主催する会議への参加

- ◇ 在宅医療介護連携推進事業 17回 (打ち合わせ 14回)
- ◇ 生活支援体制整備事業 145回 (打ち合わせ 114回)
- ◇ 認知症総合事業支援 15回 (打ち合わせ 9回)
- ◇ その他機関 56回 (打ち合わせ 33回)

4 事業所支援業務

- ◇ 総合事業事業所(通所、訪問) 11回 (打ち合わせ 8回)
- ◇ その他事業所 68回 (打ち合わせ 47回)

5 その他

- ◇ 地域住民等への広報啓発活動 64回 (打ち合わせ 31回)
地区推進会議・地区活動参加・体力測定・サロン体操指導・他機関との調整 等
- ◇ 職員の資質向上のための会議・研修会参加 106回

紹介したい取り組み

事業名	包括的支援事業の研修・各部会・連絡会等の拡充および多機関連携強化
事業の目的	当センターでは、地域包括ケアの構築・深化に向けて、地域包括支援センターを中心に地域課題の抽出と整理を行うとともに、課題解決策の検討等に関する支援の他、各機関の連携促進や情報等の共有を図るために取り組みを継続している。経過の中で、積み重なる課題や時代に伴う新しい課題、複雑多問題の課題など、包括的支援事業（以下、事業）に求められる活動は多岐にわたることから、これまで以上に事業同士が協力し、より効果的で効率的な事業展開や連携を図ることが重要であるため、各事業の動きや考え方などを共有・情報交換および、課題の協議を進める場の充実・拡充を進めてきた。
事業概要	<p>昨年度の新規開催事業や課題対策への取り組みに対しての「システム構築」や「基盤整備」、さらに会議体系の中での相互連携構築といった協議を重点活動として取り組んだ。（会議前打合せ・会議開催・目的別会議の協働会議の取組みを含め会議に積極的参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●包括後方支援業務 <ul style="list-style-type: none"> ・「包括機能別部会」による、より専門分化した課題協議の取り組み増加 ・「包括的支援事業所合同情報交換会」の重点的取り組み（開催2回） ●地域課題把握業務 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援型ケア会議のための打ち合わせ等の対応増加による基盤整備対応 ●地域包括ケアシステム連携業務 <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備事業の充実のための後方支援として基盤整備対応 ・介護保険事業所連絡会や支えあい団体等との会議の開催支援の強化と、事業ごとではない課題を、別事業同士で協議するための合同会議の展開を実施。 ●広報活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・各包括支援センターおよび生活支援コーディネーターと連携しての広報活動 ・「きかん新聞」発行（年間3回）配布機関を拡げ配布（市内全事業所）

事業名	交通をデザインしよう
事業の目的	第1層生活支援コーディネーター業務では、平成28年から交通課題を地域課題の一つと捉え、課題把握や他機関との連携、勉強会などを開催してきた。令和元年度は、これまで関係者のみで開催してきた勉強会から間口を広げ、広く広報を行い勉強会を開催することで、交通課題について自分事として考える地域や住民を増やすことを目的に「交通をデザインしよう」を5回に分けて開催した。
事業概要	<p>参集者：市民や地縁団体、地域包括支援センター等 企画協力：山形の交通課題を考える会（やまがた福祉移動サービスネットワーク、山形市企画調整課、山形市長寿支援課） 開催協力：山交バス株式会社、山形地区ハイヤー協議会、東北芸術工科大学</p> <p>内 容：第一回 地域交通を考えるシンポジウム（150名） 第二回 かしこいバスの使い方&山形市の交通施策（53名） 第三回 かしこいタクシーの使い方&高齢者の移動支援（50名） 第四回 デザインしようとする地域を知る（55名） 第五回 楽しい交通をデザインする（50名）</p> <p>効 果：本勉強会の前半は、交通事業者と直接話をする機会となり、事業者の現状や取り組み、これからの可能性について考えるきっかけとなった。後半は、地域の実情に合わせて交通課題を考えていく手順について、第一歩の踏み出し方を体験できる機会となった。また、勉強会を合同で企画することで、多機関の具体的な連携機会を創出することにつながった。</p>